

【医療現場】「かなり厳しい状態」高まる危機感 “行動制限なし” イベント混雑

2022/08/01 STV ニュース北海道



<https://news.yahoo.co.jp/articles/8648117e310a1044112f851bc994afff38f8ae60>

感染者の急増で、北海道内の病院では病床率が高まり、医療の最前線では「かなり厳しい状態」と危機感が高まっています。

一方で行動制限のない週末は、夏のイベントで賑わいを見せました。

(手稲溪仁会病院 救急救命センター 大西新介 副センター長)「今のところ、医療側はかなり厳しい状態に置かれていると思っている」

そう話すのは、札幌市内で新型コロナ患者を受け入れる手稲溪仁会病院の医師です。

この病院では、新型コロナウイルスの病床を12床から24床の倍に増やし、現在18床が埋まっています。

第7波の特徴は「高齢者と子ども」の患者の増加だといいます。

(手稲溪仁会病院 救急救命センター 大西新介 副センター長)「今入院している大部分が80代以上。もともと例えば“ぜんそく”のあるお子さんとかが新型コロナを契機に調子が悪くなって入院するのが少数あるが、小さいお子様か高齢者か二極化している。ただ一方で、医療ひっ迫がすでに出ている状況をいかに守っていくのか。合わせて考えていただければ」

札幌・豊平川の「花火大会」。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け中止が続いていましたが、3年ぶりの開催です。

およそ4000発の花火が札幌の夜空に打ち上がりました。

医療従事者に向けた「感謝の思い」も込めて打ち上げられたということです。

久しぶりの夏のイベントに多くの人が足を運びました。

「航空自衛隊 千歳基地」で開催されたのは「航空祭」です。

実に「航空祭」は3年ぶりの開催。

航空ファンなど訪れたのはおよそ4万6000人でした。

「ブルーインパルス」のアクロバット飛行が披露され、訪れた人たちから歓声があがりました。

(江別から来た親子)「やっぱりブルーインパルスですかね。格好よかったです。楽しかったよね。この子たちは初めてだったのでとっても楽しめたみたいです」

浴衣姿の子ども達が戻ってきたのは、旭川市の「永山屯田まつり」

子ども達の笑顔がたくさん見られた盆踊り会場。

「夏休み」のいい思い出となったようです。

(訪れた家族)「久しぶりに盆踊りとか踊って、子ども達と一緒に踊った事も久しぶりなので、楽しかったです」

(子ども)「夏休みを思いっきり楽しみたいです」

一方で懸念されるのが、新型コロナの「新規感染者」。

先月29日には道内で6500人を超え過去最多となりました。

新型コロナ患者の病床使用率が30%を超える旭川市です。

旭川赤十字病院では24床中14床が患者で埋まり、病床はひっ迫した状態に。

(旭川赤十字病院 牧野憲一院長)「7月20日くらいから急激に変わってきた。20日を過ぎてからどんどん上がってきて、病床使用率が50%を超えると急激に上がってきた」

この病院ではきょう現在新型コロナの重症患者はいませんが、今後懸念されているのが診療体制が維持できるのかということです。

(旭川赤十字病院 牧野憲一院長)「病院で本当に困っているのは、新型コロナ病床のひっ迫以上に、いつ院内で感染拡大が起こってもおかしくない状況が起きてきている。旭川市ではここ数日間の新規陽性者が300人を超えているのですね。人口1000人の1人が毎日陽性になっていることになる。病院として通常の診療が維持できない」

行動制限のない夏休みを迎えている道内。

病床のひっ迫で必要な医療が維持できるか。

医療現場では深刻な現状に頭を抱えています。